より採取せる種子を七月に播き一層其陶冶に心を致せり其の結果今回は二十日大根の如きもの出でゝ地上に抜け出でたるを見る十月頃一部を採取すれば聖護院蕪に類似せるものを得たり　之を醃漬となせしに普通大根と蕪との中間の味ありき　十一月に採取せるものゝ如きは宮重大根位の形にて直徑二三寸程ありたりしかも猶普通大根の味を有せず　以上第四回の淘汰研究を了へしが其の結果より推せば爾後回を重ぬるに從ひ確かに普通大根と異る所なきものを得ん本年も亦形よきものを種子として母本を作り置きたれば繼續して淘汰の結果を確めんとす』

○谷間ノ姫百合ト云フ和名ノ植物ナシ

牧野富太郎

歐洲ニモ北米ニモ産スルガ又我日本ニモ生ズルきみかげさう（君影草）一名すゞらん（鈴蘭、らん科ニモ同名ノ植物ガアル）即チ Convallaria majalis L. ヲ能ク世間デハ谷間ノ姫百合ト呼稱シテ居ルガ元來ソンナ和名即チ日本名ハ此植物ニハ無イノデアル其レ故「之ヲ谷間ノ姫百合ト云フ」ナドト書イテアル文章ヲ見ルト如何ニモ其人ノ學識ガ淺薄デアルコトガ看取サルル然シドウ言フ機會カラ谷間の姫百合ト云フ様ナ名ガ出來タカト云フト是レハ此植物ヲ西洋デハ俗ニ Lily-of-the-Valley ト稱スルカラデアル今之ヲ邦語ニ譯スレバ「谷の百合」デアルガ此「谷の百合」ヲ美辭的ニシタモノガ「谷間の姫百合」デアッテ始テ此「谷間の姫百合」ナル名ヲ拵ヘ明治二十一年二月カラ同二十三年九月ノ間ニ四冊（完結）出版サレタ西洋小說（原書ハ BERTHA M. CLAY 氏ノ Dora thorne デアル）ノ表題トナシテ出シタ人ハ青萍逸人ノ末松謙澄博士ト孤松二宮熊二郎氏トデアッタガ二宮氏ノ名ハタダ其第一卷ニ署名ガアルバカリデアル單ニ書物ノ表題バカリデナク文中ニモ『殊に谷間の姫百合などは何となく愛らしくて人ずきのする花ではありませぬか』（第一卷第百三頁）ノ句ガアル此「谷間の姫百合」ナル小說ハ當時頗ル評判デアッテ皇后陛下ニモ獻上シテ乙夜ノ覽ニ供ヘ且大分讀書界ヲ賑ハシタモノダ其レカラ後農學士川上瀧彌農學士森廣兩氏著ノ「はな」（後ニ「花」ト改メテアル）ト題スル可ナリ世人ニ歡迎サレタ書物（明

治三十五年一月初版發行）ノ中ニ此草ヲ賞讃スル中ニ亦此谷間の姫百合ノ名ガ出テ居ルノデアルカラ其レカラ段々ト其名ガ人口ニ膾炙スル樣ニナッテ來テ今日デハ君影草若クハ鈴蘭ノ名ハ知ラナクトモ却テ此谷間の姫百合ノ名ハ人ガ知ッテ居ル樣ニナッタ然シ川上氏ハ植物ノ學者デアッタカラ谷間の姫百合ヲ和名デアルナドトハ決シテ言ハナカッタ即チ同氏ノ文ニハ下ノ如ク書イテアル『これぞ歐米にて谿間の姫百合と稱へ愛でに愛でらるゝ野の花にて一莖を瓶に挿せば香氣室に充ち風致亦愛するに堪へたり。谿間の姫百合なる床かしき名ある此草になどて和名のなかるべき穗をなせる其花の形より鈴蘭の名は夙くも與へられ又の名は君影草俗の名は馬耳蘭と稱へ漢字は米蘭に宛てぬ』ト言ッテ谷間の姫百合ハ歐米ノ稱ヘデアルト理ッテアル然シ大凡上ニ述ベタ樣ナ事情カラ谷間の姫百合ト云フ名ヲ呼ブ樣ニナッタガ其レヲ知ラズニ谷間の姫百合ヲ堂々ト此草ノ唯一ノ和名デモアル樣ニ吹聽スルノハ誠ニ不詮索ノ至リデアルト謂ハネバナラヌ本來君影草ダノ鈴蘭ダノ云フ優美ナ佳キ名ガ既ニアルニ拘ハラズ之ヲ顧ミナイデ實物ヲモ知ラヌ文學者ガ一小説ノ書名トシテ空ニ机上デ譯シタ異國ノ名ヲ以テ實際ニ此草ヲ呼ブノ必要ハ何處ニアル誠ニ笑止千萬ノコトデアル

文部省ノ高等小學讀本卷一ヲ見ルト其第十一課「西比利亞鐵道」ノ處ニ『美しきは平野滿目の草花なり驛毎に谷百合、忘るな草、櫻草等の花束を賣る』ノ文ガアル此處ニハきみかげさうヲ谷百合トシテ出シテアルガ是レ亦Lily-of-the-Valley ノ直譯名デアル態々コンナ直譯名ヲ拵ヘナクトモ此草ニハ前ニモ述ベシ樣ニ既ニ優雅ナ君影草或ハ鈴蘭ノ日本名ガアルデハナイカ文部省ハ何ヲ苦ンデ此ンナ直譯名ヲ用ヰ舊來ノ和名ヲ放棄スルノカ若シ既ニ良キ和名ガアッテモ採用セヌトナラバ何故ニ櫻草ノ名モ亦之ヲ棄テザルカ櫻草ハ和名デアッテ直譯名デハナイ若シ其洋語ノ Primrose ヲ直譯スレバ早咲き薔薇デアル君影草ヲ殊更ニ直譯名ノ谷百合デ用ウレバ此櫻草モ亦其直譯名ノ早咲き薔薇デ用ヰネバナラヌ道理デハナイカ、又此ニ在ル忘るな草ハ是レモ亦洋名 Forget-me-not ノ直譯名デアルガ此草ハ固ヨリ日本ニ産シナイカラ從テ和名ト云フモノガナイ其レ故此ヲ忘るな草ト譯シ

テ其ヲ新和名トスルノハ極メテ適當ナ處置デアル此忘るな草ハ川上瀧彌氏ガ其著ノ「はな」の中デ始メテ勿忘草(わすれなぐさ)又ハ忘れな草ト譯シタモノデアルガ此樣ニ忘れな草ト云フト餘リニ俗ニ流レ過ギテヨクナイノデ小學讀本デハ忘るな草ト直シテアルガソレガ本當デアルト思フ「予ヲ忘レナ」ハ「予ヲ忘ルナ」ト言ハネバナラヌノデハナイカ

○蘚類植物ノ新和名

笹岡久彦

嘗テ恩師岡村(周諦)博士ハ植物學雜誌第二十六卷第三百十一號ニ於テ日本產蘚苔類屬名解說ヲ發表セラレ後輩ノ受ケシ利益甚大ナリキ而シテ該稿ニ自序シテ曰ク「前略……若シ夫レ學名ノ意ヲ解シ其據ッテ名クル所以ヲ了スレバ其記憶甚ダ容易ニシテ之ヲ忘却スルコト少ク又學名ニ對スル興味ヲモ生ズルニ至ルベシ……後略」ト予モ亦不肖ナガラ同一主旨ニ基キテ僅少ノ蘚類ニ對シ同博士ノ贊成ヲ得テ新ニ命名セルモノアリ玆ニ本誌ノ餘白ヲ借リテ博雅ノ士ニ問ハントス乞フ幸ニ是正アランコトヲ

Anomodon cymbifolium (LINDB.) BROTH.
ふなば=いぬまごけ　學名ニ依ル

Barbula orientalis (WILS.) BROTH.
とーよー=ねぢひげごけ　學名ニ依ル

Calliergon Kawaguchii OKAM.
かはぐち=そめわけごけ　學名ニ依ル

Fissidens laterarioides OKAM.
こしの=ほうわうごけ　越中國ニ產スルヲ以テ名ヅク　未發表品

Hygroamblystegium japonicum BROTH.
やまと=しっちごけ　學名ニ依ル

Leucobryum refractum BESCH.
ちゞみ=おきなごけ　學名ニ依ル

Meteoriella cuspidata OKAM.